

令和7年度 日南市立吾田小学校 自己評価書

学校経営ビジョン：児童に夢をもたせ、一人一人の良さを認め可能性を伸ばす。

重点目標	評価項目	平均					考察及び改善策	学校運営協議会委員の意見
		児童	保護者	教師	平均	総合		
確かな学力の定着と向上	① 学校は、タブレットをはじめとした各種ICT機器を活用しながら分かりやすい授業に努め、児童の学力向上に取り組んでいる。	3.5	3.1	3.2	3.4	3.4	各学級でタブレットを活用した授業が進んでいる。児童の活用能力も発達段階に応じて向上しており児童も実感しているようである。一方で、保護者に対して、学校の学力向上に向けた取組を紹介する機会が少ないため、保護者の肯定的な意見が少ないように思われる。 児童の学習状況については、学力テストの結果や通知票で知らせているが、今後は参観日を含め教育活動の様子や成果をより分かりやすく発信していくための手だてを考えていく必要がある。	学校は、タブレットをはじめとしたICTを活用しながら工夫した指導を行っている。学力テストの結果からも、そのような取組が成果として表れてきている。 一方で、「読み取る力」や「書く力」の向上、そして「読書の推進」にはより一層取り組んでいただきたい。ICT機器を効果的に活用しつつも、基本であるノートに書くという活動を大切にしていいただき丁寧な指導を継続して欲しい。
	② 学校は、個別指導や話し合い活動等を取り入れ、児童一人一人を大切に授業に取り組んでいる。	3.6	3.0	3.3	3.4			
心の教育の充実	③ 学校は、命を大切にする教育や人権教育、異学年交流を通して、思いやりの心の育成に努めている。	3.5	3.0	3.3	3.4	3.3	各項目で、児童の評価は高いものの、保護者・教師の評価が低めである。学校では、縦割り清掃や委員会活動等を通して児童同士のふれあう機会や基本的な生活習慣の定着を目指した活動を行っているため、「がんばっている」と実感している児童が多いと思われる。一方で、保護者・教師は児童の登下校時のあいさつや家庭での整理整頓等の様子に課題を感じているため、このような結果になったと思われる。 教育相談については、毎月「心のアンケート」を実施しその結果に基づいて教育相談及び対策委員会を行っている。 今後は、よりきめ細やかな児童の観察と学校の取組を保護者へ丁寧に伝えていく必要があると考える。	児童は、学校生活における基本的な生活習慣は身に付けてきているが、地域で接する際の挨拶や言葉遣いには、まだ課題を感じている。こうした態度の育成には、家庭での心の教育が欠かせないと思う。 特に、昨今のスマートフォンやゲームへの依存傾向を懸念している。家庭での団らんを大切に、子どもが学校の様子を親に話すような時間を意識的に創出してほしい。学校側には、参観日の懇談や各種通信を活用し、保護者に対して「家庭での団らんの大切さ」を呼びかけて欲しい。
	④ 学校は、「あいさつ・言葉遣い・片付け」等の基本的な生活習慣の定着（凡事徹底）に努めている。	3.4	2.9	3.1	3.3			
	⑤ 学校は、教育相談や家庭との連携を行いながら、いじめや悩み等の早期発見、早期対応に努めている。	3.6	2.9	3.6	3.4			
体力の向上及び健康・安全、食育の充実	⑥ 学校は、体育の授業や体育に関する行事等を通して、体力向上に努めている。	3.5	3.1	3.4	3.4	3.4	児童・保護者・教師それぞれの評価が比較的高い結果となっている。 体育の授業では体育専科教員が中心となり、スクールスポーツプランに基づいた本年度の課題（50M走・長座体前屈）改善に向けた取組を行っている。 健康指導については、健康教育の推進に向けた学年ごとの努力目標を設定し、学級担任が中心となり指導を継続している。 各種避難訓練については、警察や消防との連携を図りながら児童の危機管理意識を高め、「自分の命は自分で守る」という意識をもった児童の育成を目指している。 今後は、以上のような取組を各家庭へ積極的に発信し、家庭からの協力も得ながら児童の体力や健康意識の向上に努めていきたい。	子どもたちの体力に関しては、外遊びの変化や歩く習慣の減少に伴い低下しているように感じる。時代の変化としてやむを得ない側面はあるものの、本校児童の登校後や昼休みに校庭で元気に遊ぶ習慣は、心身の健康のために大切に守っていただきたい。 加えて、体力づくりの基盤として「自力登校」の重要性を再認識したい。車での送迎に頼りすぎず、自らの足で登下校する習慣を定着させていくためにも保護者への理解と協力を呼びかけてほしい。
	⑦ 学校は、健康指導や食育指導を通して、健康的な生活習慣の定着に努めている。	3.4	3.1	3.3	3.3			
	⑧ 学校は、避難訓練等を通して、防災意識の向上及び危機回避能力の育成に努めている。	3.7	3.1	3.2	3.5			
地域に根ざした学校運営の充実	⑨ 学校は、地域人材を活用した活動やPTAと連携した活動に取り組みながら、「地域に根ざした学校運営の充実」に努めている。	3.4	2.9	3.2	3.2	3.2	学校では、「生活科」や「総合的な学習の時間」を中心に、地域人材の活用を積極的に行っており、児童と教師からは高評価が得られている。また保護者への各種連絡は「マチコミメール」を積極的に活用することでペーパーレス化を推進している。 今後は各種報道期間等にも積極的に情報提供を行いながら、教育活動の情報発信に努めていきたい。	地域人材の活用に関しては効果的に機能しているようで引き続き取り組んでほしい。 また、マチコミメールを活用した情報発信は大切な情報を発信する上において有効な手立てだと考える。一方で、「プリントによる情報発信」の価値についても再考いただきたい。子どもたちが自らプリントを管理し、保護者へ手渡すという行為は、責任感を育む大切な機会であり、効率的なデジタル配信と、教育的配慮に基づいたアナログな手法を使い分けて欲しい。
	⑩ 学校は、HP・マチコミメールや学校便り・学級通信等を活用しながら、情報発信に努めている。	3.2	3.1	3.6	3.2			